

dedication; In Kawagoe Mixed Chorus Group

# III. Sequenz "N<sup>o</sup>5 Confutatis" in Requiem

## Part word of "Voca me cum benedictis"

piano accompaniment

Writer; Yukio Yoshida

Date; Jul 04 2007

今日まで私が聴いてきた”mozart の requiem(KV 626)”はレコード盤であれ、演奏会場であれ、オーケストラ演奏に於けるものでした。しかし、今は違います。今は piano 伴奏による”mozart の requiem(KV 626)”を川越混声合唱団の一員として、その練習日に歌い聴く事が出来ます。そのなかで私が初めて掴んだ”Golden neatness. or Neatness of gold ingot.”と思えるほどの独断的な印象の譜面 (snippet) 部分を、この文書は述べたものです。

Snippet は Requiem(kv 626) の”III Sequenz N<sup>o</sup>5 Confutatis”のなかで Soprano と alto の Tutti で歌われる詩篇”Voca me cum benedictis (私を祝福されたものたちと共に呼びたまえ)”に於ける piano 伴奏に我を忘れて魅かれます。私の胸底に迫り漂い目頭が熱くなってくるのは、モーツァルトが辿り着いた彼の魂の世界を、この piano の響きから垣間見えてくるのです。実生活で夢破れた彼が魂の世界で掴んだ世界をたった今、瞬時に見せていると..... 私は思ってしまうのです。

Andant

soprano

alto

piano

7 *sotto voce*  
Vo-- ca, vo-- ca me, vo-- ca. me cum be- ne-- di-- ctis.

11

17 *sotto voce*  
Vo-- ca, vo-- ca me cum be- ne-- di-- ctis, cum be- ne-- di-- ctis, vo--  
*sotto voce*  
Vo-- ca, vo-- ca me, vo-- ca me cum be- ne-- di-- ctis,

21

本来この部分はオーケストラの violin section (Mozart の Full Score では violini I のみの staff score に Süssmayr が violini II として同じものを追加して成り立っているとのこと。piano で弾かれた music を聴いてモーツァルトの心境を . . . . . 彼が夢に追った世界を . . . . . を垣間見ていると私は感じてしまうがありません。

モーツァルトが Requiem に於いて残した長編詩である。 ”III Sequenz N°1 Dies iræ ~ N°6 Lacrimosa” の音楽表現は後生の作曲家に「死のモチーフ」部分の music 表現として今日でもヨーロッパ市民社会の中に影響し続けているので？。

. . . . . バチカンのシスティーナ礼拝堂の壁画「最後の審判」(ミケランジェロ)の前に立つと聴こえて来るのです、この Dies iræ から始まる死の恐怖と Confutatis に於ける哀願と祈り、. . . . . その中で ”Voca me cum benedictis (私を祝福されたものたちと共に呼びたまえ)” の soprano と alto の Tutti(sotto voice) と共に piano 伴奏で表現された響きの世界から、救われた者の住む聖者の世界を垣間見えて(感じて)仕方が無いのです。私もそうありたい。否! もし天上への階段が存在するなら天使 (soprano, alto) の ”Voca me cum benedictis” の合唱に導かれて階段を上りきり、最上段の扉を開けた世界へと魂の意思で入って行きたい!

---

音楽用語について音楽に於ける標語なのですが、Kawagoe Mixed Chorus Group の Conductor である Mr.Ken Minowa は団員へ常に再三にわたる注意を喚起しております。そこから私が感じ取ったのは、音楽表現に於いて作曲家が使う音楽用語の日本語訳書はまったく当てにならない!

この譜面の ”Andant” は大方は ”のんきに歩くような速さ” の意識で文字通り速度標語として日本の音楽界ではまかり通っていますが、Conductor Mr.Ken Minowa が練習で注意を促したのは、 ”Andant” は ”移動する、前に進む、真ん中” 等々の意であって、つまり、動的感覚で捉えなさい! です。もう一度、譜面に戻って動的感覚 ”前に進む” 等々で音符を追って試してみてください、速度感覚 (歩く速さ) では比べられない世界が出現するはずですよ。